

兵庫労山「東日本大震災」支援及び被災地視察報告

各会では、独自に支援活動をされていましたが、県連として義援金だけでなく、なにか現地に行って支援ができないかと考えていた時に宮城県連を通じて「石巻農協からの農地復旧支援要請」が全国連盟にあり、兵庫労山として被災地支援と被災状況視察を兼ねて下記のとおり行ってきました。

- 期間:2011年6月4日(土)夜発～6月8日(水)朝帰
- 参加:門脇道成(山歩溪山岳会)、吉谷隆男(須磨勤労者山岳会)
- 日程:6/4 夜行バス(大阪スカイビル前)19:30 発⇒
6/5 仙台駅前 8:00 着⇒レンタカー⇒石巻市街⇒
ビニールハウス復旧作業⇒女川及び石巻海岸地区視察
6/6 ビニールハウス復旧作業
6/7 被災地の状況視察(女川⇒南三陸町⇒気仙沼⇒陸前高田)⇒
仙台⇒夜行バス 19:30 発⇒6/8 大阪 8:00 着
- 宿泊地:水沼東部構造改善センター(石巻市水沼字台畑1番地の3)



6/4(土) 門脇理事長とJR大阪駅で待ち合わせをして大阪スカイビルから夜行バスに乗る。6/5(日)の朝、仙台駅に着き、予約していたレンタカーを借りて石巻を目指す。仙台市内は、震災の被害があまり感じられなかったが、石巻の市街地に入ると街の様相は一変し、地震と津波により町は壊滅状態でした。信号は、未だに復旧しておらず、関東から応援にきた警察官により誘導されていました。市街地を越えて農地復旧作業の付近に来ると農地は未だに海水に浸かったままの状態であり、車がそちらこちらに散乱している状況でした。

〈石巻市街地及び農地の被災状況〉



作業を行う農地(ビニールハウス)に着くと、土曜日から支援に来ている群馬、埼玉、千葉労山の仲間が30名ほどで作業されており、私たちも作業服及び長靴に着替えて作業を行う。ハウス内は、1m程の津波の被害を受け塩交じりのヘドロが堆積しており、その撤去とハウスの片付け等を行った。この地域には、外国の方も多く支援に来れており、側溝に溜まったヘドロの撤去作業をされていました。

〈ヘドロ撤去作業をしたビニールハウスの農地と労山の仲間たち〉



昼に本日の作業が終わったので労山の仲間と女川へ被災地の視察に一緒に出かけました。下記の写真のように10mを超える津波に襲われた漁港や街は、全滅状態でした。今日帰られる群馬、埼玉、千葉労山の仲間と別れて、石巻に戻り石巻湾の海岸地域の被害状況を視察に行きました。

<女川湾(漁港)及び町の被災状況>



<石巻の海岸地域の被災状況>



6/6(月) 今日、労山の仲間も昨日に帰られて門協理事長と二人で別のビニールハウスの泥よけ作業とハウス内の片付け作業を石巻農協OBで石巻労山の前会長の岡さんに指南を受けて、一日中行いました。天気が良くハウス内は、暑いくらいで大変でした。近所の方が、おにぎりやリンゴや飲み物を差し入れに来てくださいました。話をすれば、自分の所も自宅は跡形も無く流されてしまったが、家族は皆無事であったと言われ、後片付け等の支援を皆さんから受け、元気付けられたと言われていました。その日は、作業に終始し、20km 程離れた道の駅の温泉に行き、疲れを癒しました。その夜は、岡さんが差し入れしてくださったお酒で宿舎にて親睦を深めました。

6/7(火) 今日、宮城県を中心に甚大な被害を受けた「南三陸町、気仙沼、陸前高田」の地域を視察に行きました。途中、海岸通りの道は、通行止めになっており、迂回をしながらの運転でしたが、リアス式海岸の小さな入り江の集落は、跡形も無く壊滅状態でした。

<南三陸町の被災状況>



<気仙沼の被災状況>



陸前高田市の被災状況

